

2.25 関電本店前「再稼働阻止」全国行動 決議文

原発が、人類の手におえる装置でないことは、福島の大惨事が大きな犠牲の上に教えるところ
です。原発事故から5年近くになる福島では、避難された10数万人のほとんどが未だに避難生活
を強いられています。長期の避難生活は、健康をむしろ、家族の絆を奪い、大きな精神的負担
となっています。多くの方が避難生活の苦痛で病死され、自ら命を絶たれました。

一方、福島事故で溶け落ちた原子炉は、高放射線、今でも内部は殆ど分かっていません。汚
染水は垂れ流され続け、汚染土壌の除去・除染はごく一部の地域の表層に限られています。それ
でも、安倍首相は、福島事故はコントロールされていると、世界に向かって大嘘をつき、人々に
犠牲を強いる原発の再稼働を推進しています。

ところで、関西電力は、1月29日、危険度が高い加圧水型・MOX燃料原子炉であり、30年越え
の老朽原発である高浜3号機の再稼働を強行しました。明日にも営業運転を開始すると報道され
ています。また、同じく老朽な4号機は、再稼働準備中の去る20日に、汚染水漏れのトラブルを
起こしたにも拘わらず、その再稼働も、明日、強行しようとしています。満腔の怒りを込めて弾
効し、抗議します。

他方、原子力規制委員会は、40年越えの超老朽高浜原発1、2号機まで、国民騙しの新規制基
準で審査し、昨日、審査書案を取りまとめ、適合の判断を示しました。この暴挙を、許してはな
りません。

さて、老朽原発が、事故率の極めて高い原発の中でも、とりわけ危険であることは、昨年8月
に再稼働された川内原発1号機が、再稼働10日後に早速、復水器冷却細管破損を起こしたこと、
高浜原発4号機が、再稼働準備中に汚染水漏れを起こしたことからも明らかです。何れも、重大
事故に繋がりがねないトラブルです。川内原発のトラブルは、原子炉内の配管腐食が深刻になっ
ていることを示しています。高浜原発の汚染水漏れについて、関電は、「弁のボルトの締め付け不
備が原因」と事もなげに発表しましたが、このトラブルこそ、老朽原発が点検し難い構造を持つ
施設であること、電力会社の点検・検査体制が弛み切り、彼らが、安全を全うする能力を持ち合
わせていないことを、具体的に物語っているのです。また、このように多発するトラブルは、老
朽原発の再稼働にお墨付きを与えた新規制基準が、世界で最もいい加減な基準であることを明白
に示しています。

以上のようにトラブルが多発する老朽原発ですから、その危険性は多くの人々が警告していま
す。したがって、電力会社、政府、規制委員会がこの警告を無視して再稼働を強行して、事故が
起こったら、それは、彼らの故意による重大犯罪です。

原発を再稼働させてはなりません。原発は、時間的、空間的に、他の事故や災害とは比較にな
らない規模の重大事故を起こしかねないからだけではなく、原発を運転すれば、何万年も保管し
なくてはならない、使用済み核燃料が蓄積するからです。使用済み核燃料の処理・処分法はなく、
長期にわたる安全保管法もありません。保管地は、子子孫孫まで放射性廃棄物の危険に脅かされ
るので、永久保管はもちろん、中間貯蔵を受け入れる場所すらありません。原発は、人類の手
におえる装置ではないのです。

それでも、今、政府、電力会社、規制委員会は、矢継ぎ早の再稼働を企てています。この再稼
働の流れを大きな反撃もなく許せば、彼らは、増長して、伊方原発、大飯原発など、全国の原発
の再稼働を加速するでしょう。さらに、原発の新設まで企てるでしょう。再稼働された原発の安
全対策も怠るでしょう。

原発事故は、自然災害とは異なります。地震や火山噴火のような自然災害を止めることはでき
ませんが、原発事故は止められます。原発は人が動かしているのですから、重大事故が起こる前
に、人が原発全廃を決意して、原発全廃の行動に起てば良いのです。

本日、ここ関電本店前に結集した私達は、決意を新たに、電力会社、政府、規制委員会の心胆
を寒からしめるような行動に決起し、原発の即時全廃を闘い取ることを決議します。

2016年2月25日

関電本店前「再稼働阻止」全国行動参加者一同